

いの流水俳壇

松尾 満津於 選

「土佐和紙工芸村吟行句会」

一日時 3月13日(土)

二 場所 土佐和紙工芸村及び周辺
於 吟行場所 雑詠

漉槽すまぶねに春光散らしして紙を漉く

友草 水月

(評)豊かな感受性と自在さが、すぐ近所に漉屋が存在することと相俟って情景が端的に捉えられた句である。俳句への情熱を底流に素直に無心になっているところに、この一句の豊かさと品位が伺い知れる句。

水車小屋水涸れておりねこ柳

植田 紀子

(評)水が涸れている水車小屋、春がそこまで来て立ち止まっているような感じがする。或る日の風景である。ねこ柳は池塘や川岸、渓谷などに多く野生している柳の一種で、早春の頃葉に先だつて幼い枝に灰白色の短い毛と密生した花を交互につける。落ち着きのある句で、決して暗さ

はない。

いの町の国道沿いに設置された「道の駅」構内の製紙展示場の早春の情景である。

和紙工房三色すみれ董なみいろ深む

井上 郁子

(評)「すみれ」にもいろいろ種類があるが、日当たりのいい山畑などで見かける、いわゆる冬の「すみれ」は葉も花も小柄、葉はみどり濃く花は濃紺、花が咲くのは早春。「和紙工房」という背景がある風情だろうが、率直に云って「工房の情景」が見えてこないのは工房に作動がなかったことに起因しているのだろう。作者の心中に観照の入る隙がなかったのかも知れない。

見下すや工芸村の花の冷え

大川 節弥

(評)桜の花の咲く頃、一時的にもどる寒さが「花冷え」である。山の上から見おろす工芸村、雑草の緑に晩春の印象を強くする。人間を離れて単なる自然は俳句のなかに存在しないという、基本的な考えからすれば、この「花冷え」は現今の工芸村そのものの存在のようにも思えてくる。

雪柳回らぬ水車眺めをり 間 浩太

花こぶし山の日抱く紙の村 岡本とも子

雪柳和紙の館の石造り 竹崎 光子

紙を漉く館やかたに点とまる明り窓 片岡 かね

三極の花にカメラの歩を返す 川村 博子

吟行の歩幅となりて青き踏む 刈谷 志津

山雀の小徑に飛び出し春告げる 筒井 正子

老一病つまずかないぞ菜種梅雨 弘瀬うき子

山峡に三極の花真黄色 森岡 照月

どの道をゆくも湖もの芽明ゆ 伊藤 萩甫

戸窓いの予報三日の晴れ間なし 竹崎たかひろ

灯し火にやさしき顔や雛人形 筒井 一平

だんだんと山の高さにさくらかな 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」
締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133



「梅のもぎ採り体験」参加者募集

- ▶ 日 時 6月13日(日) 9時30分集合(受付)
- ▶ 集合場所 グリーンパークほどの『森林生態学習館』
- ▶ 内 容

「南光」「白加賀」「鶯宿」の3種類、約500本の梅園に入り、必要量の梅を採取後計量し、1kg200円で購入していただきます。

▶ その他

- ① 雨具・虫除け用品などご持参ください。履き物は、長靴又は運動靴を着用してください。
- ② もぎ採った『梅』を入れる袋も各自ご持参ください。

▶ 申込締切日 6月9日(水)

▶ 申込・問い合わせ

いの町観光協会

☎ 893-1211